

科目名				授業の種類	授業担当者	
相談援助				演習	守 秀子	
学科	学年	単位	時間数	授業回数	履修時期	必修・選択
保育科	2	1	30	15	後期	必修
[授業の目的・ねらい]						
<p>保育者としての相談援助に必要な、幼児理解・保護者理解のための基礎知識や技術を習得する。また、相談援助の基本となる相談理論や対人理論、アセスメント手法を学び、子どもおよび保護者の援助のあり方を身につける。</p>						
[授業全体の内容と概要]						
<p>幼児理解のための基本的事柄に関する内容や、相談の基本的意義および実践のあり方に関して講義を行った後、発達障害、不適応、虐待など相談の多いものを中心に、問題を抱える子ども達や保護者への理解を深める為の講義を行う。また、援助のための応用的知識や手法を解説し、相談の実践に結びつけるようなトレーニングも実施する。</p>						
[受講上の注意事項]						
<p>実践的な内容も含まれるため、授業には積極的に参加する必要がある。課題は講義開始前に提出すること。</p>						
[使用テキスト]				[評価基準]		
使用しない。適宜資料を配布する。				試験60% 小テストおよび課題40%		
[授業の日程と各回のテーマ・授業内容]						
回	項目		授業内容			
1	相談援助の意義		相談の理念と現場の概要			
2	相談のための幼児理解		心理的側面からのアプローチによる幼児理解			
3	相談の基本的理論Ⅰ		精神分析的立場からのとらえ方			
4	相談の基本的理論Ⅱ		来談者中心療法の立場、ロジャース理論、カウンセリングマインド			
5	相談の基本的理論Ⅲ		行動主義的・認知行動主義的立場からのとらえ方			
6	発達に問題を抱える子ども		発達障害			
7	発達に問題を抱える子ども		発達障害児と保護者への援助方法、対応のあり方			
8	発達に問題を抱える子ども		上記以外の心身障害児、その理解と対応			
9	不適応症状		子どもに見られる心因性の不適応症状、その解説と対応			
10	問題を抱える家庭		育児放棄、虐待、DV、経済的困窮などの機能不全家庭 症状		保護者の不適応	

11	問題を抱える家庭	上記家庭への援助、対応
12	相談演習	傾聴訓練、相談ロールプレイ
13	コミュニケーション訓練	アサーション訓練、ブレインストーミング
14	アセスメント	アセスメントの考え方および技法
15	相談援助のあり方・連携	行政の支援、地域との連携、各種機関との連携、家庭との連携